



第20回 全国学校給食甲子園 優秀賞受賞

球磨郡
PTA

第4号
2026.3.1

球磨郡PTA
連絡協議会
〒868-0408
あさぎり町免田東
1774
あさぎり町生涯学
習センター内
kumagun.pta
@gmail.com



献立
びかまるご飯、牛乳、骨かじり丼、コ
ミックサラダ、SDGsなお漬物、ふ
わもちいちご蒸しパン



湯前町学校給食共同調理場

令和七年十二月七日(日曜日)、
女子栄養大学(東京都)において、第二
〇回学校給食甲子園決勝大会が行われ
ました。

この大会は全国の学校給食で提供さ
れている料理を競う大会を通じ、食育
を啓発することと地産地消の奨励を目
的としています。

第二〇回となる今年度の応募献立の
テーマは、「食育を創る我が校の学校給
食」でした。
昨年度の錦町給食センターの受賞を知
り、今大会に参加することを決めた湯
前町学校給食共同調理場。栄養教諭
田代優子さん、調理員尾方愛莉さん
のお二人が、応募総数一、〇一九件の中か
ら県代表、九州ブロック代表として決勝
大会に進み、全国の一代表の一つに選
ばれました。決勝大会では「全国学校給
食甲子園優秀賞」「食育授業精励賞」の
二賞を受賞されました。

今回の献立は「S(すばらしい)D(伝
統料理を)G(学校給食に)S(した)メ
ニュー」。町内産のお米びかまるに、県産
大麦。びかまるくんを入れた「びかまるご
はん」に、奥球磨地方の郷土料理「骨か
じり」をアレンジした「骨かじり丼」。
「まんがを核とした街づくり」を推進し
ている湯前町だからこそ楽しい「コ
ミックサラダ」に、下村婦人会の再活用
したSDGsなお漬物、「きりしぐれ」。
「ふわもちいちご蒸しパン」は下村婦人
会のイチゴジャムと県産米粉、豆乳を
使って乳アレルギーにも対応しています。

調理場長 山崎祥子さんにお話を伺い
ました。
湯前町学校給食共同調理場では町内
の小中学校の給食二八四食を六人のス
タッフで調理しています。

月に一回の「くまさんデー」では、球磨
郡の食材を使用しているの楽しくおいしい
食育を行うなど、学校での食育にも力
を入れられています。近年の物価の高騰
で大変な面もあるそうですが、たくさ
んの工夫と愛情で子どもたちに美味し
くて栄養たっぷりな給食を届けてくだ
さっています。

来年度もぜひ全国学校給食甲子園を目
指したいとお話してくださいました山崎さん。
これからも地域の子どもたちのために、
学校給食共同調理場のさらなる活躍を
期待しています！

大会ホームページにある応援ページでは、
生徒さんからの応援メッセージも掲載
されています。



大会HPはこちら
→[https://kyusyoku-
kosien.net/](https://kyusyoku-kosien.net/)



応援ページはこちら
→[https://kyusyoku-
kosien.net/2025final-
detail_kumamoto/](https://kyusyoku-kosien.net/2025final-detail_kumamoto/)

ポラーノの広場



子どもたちの「安心」と「未来」を
地域で作る

郡市初・フリースクール
「ポラーノの広場」

の挑戦

今、求められる
「学校以外の選択肢」

近年、全国的に不登校の児童生徒数が増加しており、私たちの住む人吉球磨地域も例外ではありません。学校に行きたくても行けない、教室に自分の居場所が見つけられない……。そんな葛藤を抱える子どもたちや、出口の見えない不安の中で我が子を見守る保護者の皆様の声が、日々大きくなっています。こうした切実な現状を受け、令和七年十二月、人吉市願成寺町に人吉球磨初のフリースクール「人吉球磨夢学会ポラーノの広場」が発足しました。（四月開校予定）本稿では、同ス

クールの設立趣旨から具体的な活動内容、そして強力なサポート体制について詳しくご紹介します。



設立の背景と想い

「誰一人取り残さない」

地域の教育力

「ポラーノの広場」は、一般社団法人熊本夢学会と提携し、元中学校教諭の伊

豆野浩代表をはじめとする、地域の教育・福祉に精通した有志によって設立されました。

設立の根底にあるのは、「子どもたちが自尊心（自己肯定感）を取り戻し、自分らしく生きていくための力を育む場所を作りたい」という強い想いです。学校という枠組みに馴染めないことが、決してその子の将来を閉ざす理由にはならない。むしろ、多様な学びの選択肢があることで、その子本来の輝きを取り戻せると信じ、この活動は始まりました。

教育・医療・福祉が

手を取り合う

「最強の講師陣」

「ポラーノの広場」の最大の特徴は、スタッフの専門性の高さや層の厚さにあります。退職教員を中心とした教育のプロだけでなく、

多角的な視点から子どもを支えるスペシャリストが名を連ねています。

・教育のスペシャリスト

元校長、元教育長、特別支援教育の経験豊富なベテラン教員たちが、学習指導だけでなく心のケアにもあたります。

・医療・福祉の専門家

心療内科医、社会福祉士、保育士がチームに加わり、専門的なカウンセリングや生活支援を行います。

・多彩な外部講師

英語、社会、農業、自然環境研究などの専門家が、子どもたちの「知的好奇心」を刺激します。これほど多様な専門家が結集した背景には、不登校が抱える課題が「学習」だけにとどまらず、心理的要因や発達の特性、家庭環境など多岐にわたるためです。



「なかみ」を大切に、独自のカリキュラム

ここでは、決められた時間割をこなすことよりも、子ども一人ひとりの「主体性」と「やってみよう」という気持ちを最優先します。

① 個に応じた学習支援とICTの活用

学習の遅れに対する不安を解消するため、個々の習熟度に合わせた丁寧な指導を行います。また、プログラミングやグラフィックデザイン、YouTube制作などのIT活用授業も導入。現代の子どもたちが興味を持ちやすく、将来の自立にも直結するスキルを楽しく学びます。

② 五感を研ぎ澄ませます

「体験活動」

人吉球磨の豊かな自然を

活かした川や山での体験活動、木工、調理実習などを通じて、実社会で生きる知恵を身につけます。陶芸や農業体験など、地域の方々と触れ合う機会も大切にしています。

③ 感性を磨く

「芸術・文化活動」

音楽、美術、茶道、書道、演劇。正解のない芸術活動を通じて、感情を表現し、自分を認め、他者を認める心を育てます。

④ 身体と心を整える

「ビジュントレーニング」

読み書きや運動の土台となる「見る力」を養うビジュントレーニングも導入。発達の特性に応じた科学的なアプローチで、学習や生活のしにくさを改善していきます。

保護者の皆様への寄り添い「親睦会」の役割

不登校の問題で最も孤立しがちなのは、実は保護者の方かもしれません。「自分の育て方が悪かったのではないか」「この子の将来はどうなるのか」という不安を一人で抱え込まないために、ポラーノの広場では**保護者同士の親睦会(茶話会・懇談会)**を定期的に開催します。

同じ境遇にある親同士が語り合い、情報を共有し、専門スタッフに相談できる場があることは、家庭全体の心の安定に大きく寄与します。「子どもを支える親を、地域が支える」——これがポラーノの広場の基本姿勢です。

入会・見学・無料体験のご案内

ご案内

「いきなり入会するのは勇気がいる」という方のために、**無料体験入学**を実施

しています。(開校までは何回でも、開校後は三回まで)

・対象

主に中学生(小学生、高校生、一般の方も応相談。高校生は通信制高校を導入予定)

・活動日時

月々金曜日 10時～15時
(土日に体験イベントを行う場合もあります)

・場所

人吉市願成寺町四四一
一(株)新堀産業 人吉支店ビル(願成寺ごんどう医院横)

・経費

月額 三万円(※教材費・体験活動費等含む。ご事情により相談に応じます)

誰かが、どこかで、

見守っている

ポラーノ広場の手書きのチラシに添えられた三國

屋豪恩さんの詩には、こんな一節があります。

「誰かがどこかで笑っている、誰かがどこかで踊っている……あきらめているあなたも、私も、みんなみんな生きていく」

ポラーノの広場は、まさにその「誰か」として、子どもたちの歩みを温かく見守り続ける場所です。学校という一つの道だけでなく、回り道にしても、立ち止まっても、その先には豊かな未来が広がっていることを、この場所から伝えていきたいと考えています。

【お問合せ・ご相談】

人吉球磨夢学舎

代表:伊豆野 浩

TEL 090-8915-3058

✉ kumamoto.yumegaku@gmail.com

@gmail.com



ご相談はこちら!

心に届く「声」の贈り物

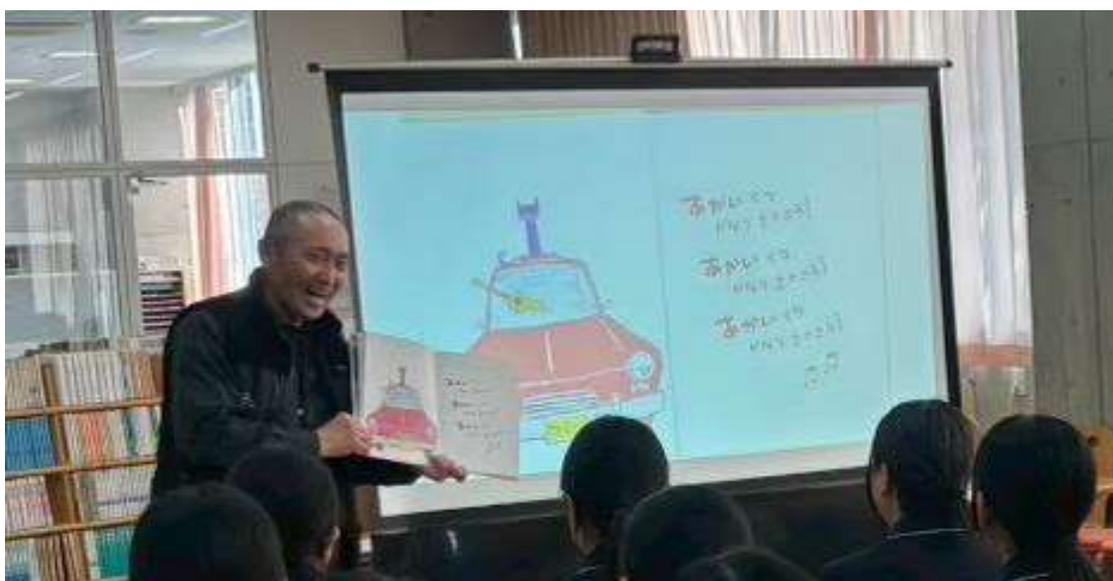
想像力の翼を
広げるために



桑原副会長が伝える 読み聞かせの力

皆さんは最近、誰かに本を読んであげたり、あるいは誰かの声で物語を聞いたりしたことはありませんか。郡P副会長、桑原さんは、長年この「読み聞かせ」の活動を大切に続けてこられました。その情熱が実を結び、この度、尚綱高校で保育を学ぶ生徒さんたちへ、体験と講演を行うことになりました。未だの先生たちへ贈られた、温かいメッセージをお伝えします。

「読み聞かせは、子どもだけのもの」と思っていますか。実は、物語を声で届けることは、聞く人の心の中に、その人だけの自由な絵を描かせる素晴らしい体験なのです。桑原さんは言います。「絵本は、声や表情、そして『間』があることで、物語がどこまでも広がっていくんですよ」と。登場人物の気持ちや想像し、一緒にハラハラしたり笑ったりする時間は、豊かな感受性を育むかけがえのない宝物になります。



「伝える力」は
一生の財産です

スマホ時代

だからこそ、
人の声で



実は、読み聞かせは「読む側」にとっても大きな学びがあります。声の強弱や、次の言葉を出す前のちよっとした「間」。これらを意識することで、自分の思いを相手に届ける「表現力」が自然と磨かれていきます。これは、仕事のプレゼンや面接、あるいは大切な人との会話など、私たちの日常のあらゆる場面で役立つ、一生ものの力になるはずです。

今はスマホ一つで、いつでも動画や情報が手に入ります。でも、誰かが自分のために、隣で声を出し、ページをめくってくれる。その温もりは、何物にも代えられません。同じ文章でも、読む人によって世界は変わります。声の表情から伝わる感情が、私たちの記憶や価値観と深く結びつき、心を豊かにしてくれるのです。

貴方も物語の贈り主になりませんか

ゆっくり、そして「間」を楽しみましょう
「上手に読まなきゃ」と構える必要はありません。一番のコツは、いつもより少し「ゆっくり」読むことです。大切な場面では、あえて数秒黙ってみてください。その「間」が、聞き手



のワクワクを引き出します。登場人物になりきって、少しでも声色を変えてみるのも楽しいですね。まずは一冊、お気に入りの本を手にとってみませんか。

想像力の翼を 広げるために

一番大切なのは、読者が緊張せずに楽しむことです。桑原さんは、高校生たちに「読むことに必死にならず、聞き手と視線を合わせてみて」とアドバイスされました。本と聞き手を交互に見ることで、心が通い合う一体感が生まれます。完璧な朗読を目指すより、「このお話を一緒に楽しもうね」というあなたの気持ちの方が、何よりの隠し味になります。

「誰に届けたいか」で 選ぶ楽しみ

子どもさんには、リス

ムの良い短いお話を。ご高齢の方には、懐かしい昔話や季節を感じる物語を。相手の顔を思い浮かべながら本を選ぶ時間も、読み聞かせの楽しみの一つです。もし迷ったら、自分が「面白いな」と思った本から始めてみましょう。あなたが楽しんでいる姿こそが、聞き手を物語の世界へ誘う一番のガイドになります。

感じたこと

未来の保育者たちが



講演を終えた生徒さんからは、驚きと感動の声が溢れました。「声

一つで、こんなに世界が広がるなんて!」「将来、実習や自分の子育てでも、桑原さんのように楽しみながら読んであげたい!」……中には、読み聞かせは大人の心も癒やすものだと言っていた生徒さんもありました。桑原さんの「声」のバトンが、しっかりと次世代へと渡されました。

一冊の絵本から

始まる絆

読み聞かせは、自分の世界を広げ、それを誰かと分かち合う「絆」の行為です。一冊の絵本を囲む時間は、心と心がつながる穏やかで贅沢な時間。今夜、ご家族や身近な誰かと、その時間を共有してみてください。あなたの声で語られる物語は、きっと誰かの心の中に、温かな灯をともしはります。



学校紹介

広報球磨郡PTAでは 毎回各学校の紹介をしていきます。今回は多良木町 黒肥地小学校と柳野分校、相良村 相良北小学校の3校です。

- ①校訓/PTAのスローガン ②児童生徒数
③教職員数 ④校長先生 ⑤PTA会長
をお聞きしています。



多良木町立 黒肥地小学校

- ① 「ありがとう」で
つながる黒肥地小
② 101名 ③ 23名
④ 井口秀明 校長先生
⑤ 中村英明 会長



学校のHPIはこちらから!

<https://es.higo.ed.jp/kurohiji/>



校内親子美化作業では、児童・保護者・教職員が力を合わせて環境を整え、感謝の心と協力する力を育んでいます。

また、年末の門松づくりでは、地域の方々に教えていただきながら、日本の伝統文化に触れる貴重な学びの場となっています。



「ありがとう」で
つながる黒肥地小

黒肥地小学校では、「ありがとう」でつながる黒肥地小」を合言葉に、「当たり前のことを
びつくりするほどちゃんとやる子ども」
「凜とした挨拶・返事ができる子ども」
「学習をつくる子ども」
「友達や命を大切にする子ども」
「動く子ども」
の育成をめざしています。



150周年記念ソング

さらに、本年度は創立一五〇周年という節目の年を迎え、二月八日には記念事業を開催しました。これまで学校を支えてくださった多くの方々への感謝を胸に、次の時代へとつながる学校づくりを進めています。



多良木町立 黒肥地小学校 柳野分校



- ①校訓:考える学校 き
れいな学校 仲よし学校
PTAスローガン:柳野魂
② 2名 ③ 2名
④ 井口秀明 校長先生
⑤ 松下裕一 会長 学校のHPはこちらから!



<https://es.higo.ed.jp/kurohiji-y/>



黒肥地小学校柳野分校は、創立一〇一年目を迎えました。熊本県内に二校しか分校はなく、極少人数の分校は柳野だけです。三年生一名、四年生一名の複式学級、教員、用務員の二名の計四名で毎日元気に過ごしています。二家庭でPTA活動は積極的に参加しています。

特に、運動会は、何度も会議を重ね、PTA、地域の皆様と連携し会場を盛り上げました。PTAは運動会運営にも協力しています。今年度の運動会も、本校生や本校の保護者も参加し、会場が盛り上がりました。色々な方を巻き込みながら懐かしい競技を行ったり、PTAで育てた芋をプレゼントしたりと楽しい地域ぐるみの運動会になりました。



他にも、七夕集会の竹切りや飾りつけ、夏と行事前の美化作業、十二月の門松づくりなども行っています。少人数ですが、柳野魂を前面に、子どもたちの健やかな成長と輝かしい未来のためにこれからも尽力していきたいと思えます。





相良村立 相良北小学校

- ① 心豊かに 体たくましく
- ② 3名 ③ 8名
- ④ 中島 公洋 校長先生
- ⑤ 宮原 庸介 会長



学校のHPはこちらから!

<https://es.higo.ed.jp/sagarane>



相良北小学校は明治八年に田代小学校として創立しました。その後、四浦尋常小学校、四浦尋常高等小学校、四浦国民学校、四浦村立四浦小学校と改称され、昭和三十一年に相良村と合併し、現在の相良北小学校となり、今年度(令和七年度)一五〇周年を迎えました。現在は児童数三人で「少人数だからこそできる教育」を目指して様々な取組を展開しています。特に今年度は創立一五〇周年記念事業として、「八代市立泉第八小学校とのオンライン交流」「創立周年の記念石碑の拓本」

「小山勝清顕彰童話発表会」等を実施しました。(小山勝清氏は四浦出身の作家・代表作は彦一とんち話、それからの武蔵など)本校のPTA活動は「地域とともにある学校」そのものです。お茶摘み、四浦こんにやく作り、四浦和紙の紙すき体験、童話発表会、持久走大会等のすべての活動は学校応援団(きたっこ元気会)を中心とした地域の方々と一緒にを行っています。子供たちは地域の方々に見守っていただきながら毎日笑顔で過ごしています。



こんな時、安心です!



◀ 給付について
「たとえば
こんなとき…」

P災コース 児童・生徒

中高生が、自転車通学中(学校の許可有り)に、
左折車に巻き込まれ、負傷した
(P災コース・交通事故共済金)

児童・生徒の登下校時の交通事故による
死亡・後遺障害(学校管理下)
(P災コース・死亡、後遺障害共済金)

部活動中に打撲により
前歯が2本破折したため、
保険外の歯科補てつ治療が
必要になった
(P災コース・歯科特別共済金)



安互コース 保護者(PTA会員)

中体連主催の試合に出る中学生を
会場まで自家用車で送った際に、
信号待ちで停車中に追突され、
運転していた母親が負傷した
(安互コース・交通事故共済金)



PTA保護者会員が、運動会の準備のため、
テント設置をした際、手をはさみ負傷した
(安互コース・負傷共済金)



小学校の授業参観に参加したPTA保護者会員が、
校内の階段から転落して骨折した
(安互コース・負傷共済金)

PTA主催のミニバレーボール大会の練習中に
PTA保護者会員がアキレス腱を断裂した
(PTA活動)

(安互コース・負傷共済金)

PTA共済金 給付の例

災害発生から給付までの流れ



お問い合わせ

熊本県PTA共済に関するご質問等は…
一般財団法人 熊本県PTA教育振興財団事務局まで
フリーダイヤル:096-223-7119
(電話受付時間 9:00~17:00(月~金))

各種お手続き

学校のPTA共済担当者へ
ご連絡ください

熊本県PTA共済

検索



ホームページ

※1 誌新書は当共済の様式にてご提出ください。 ※2 事故報告は30日以内にお願ひします。
※3 災害発生から2年を経過した後の事故報告は給付が受けられなくなります。



今年度も

- ・校長会長研修会
- ・県P大会あまくさ大会
- ・九P大会福岡市大会
- ・日P大会石川県大会
- ・各種研修会、研究大会が行われています。参加された皆さんに会場の様子、研修会の内容など、お尋ねしてみました。

人吉球磨 小中学校長 PTA会長合同研修会

令和七年十月二四日、あさぎり町ポッポ館にて、人吉球磨の小中学校長、PTAが一堂に会しての研修会が行われました。今年度は球磨教育事務所の有村社会教育主事にファシリテーターをお願いし、「みんなて話そう 私たちの学校のこゝろ各校の現状・課題・取り組みを共有しよう」のテーマの下、親の学びを使用したアイスブレイクとグループワークを行いました。例年、校長会長合同研修会では講師の先生に来ていただき、講演会を行っていましたが、今年度は初めてのグループワーク形式。参加型の研修会になったことから、「楽しく学べた」との声を多数いただきました。

人吉市には九校、球磨郡には二七校の小中学校、義務教育学校があります。グループごとにそれぞれの学校の情報交換を行い、取り組みなどを共有するこゝとで人吉球磨が一体となり、お互いにより刺激となった研修会となりました。

つなごう 未来への架け橋 第51回熊本県PTA研究大会あまくさ大会



【大会の概要】
去る十一月八日(土)、「つなごう 未来への架け橋」を見つけよう！始めよう！変えよう！PTAだから今、できること」をスローガンに、第五十一回熊本県PTA研究大会あまくさ大会が盛大に開催されました。天草市民センターや大矢野総合体育館など、複数の会場に分かれて多彩なプログラムが展開されました。



【学びのトピックス】
第3会場では、元女子バレーボール日本代表の小幡真子氏が登壇。「つなごうってなんだろう？」と題した講演が行われ、チームワークや地域・家庭でのコ

ミニセッションの大切さについて、ご自身の経験を交えた熱いメッセージが届けられました。また、各会場での分科会や事例発表では、変化する社会境の中のPTA活動の工夫や、ICTの活用、地域との連携など、明日から実践できるヒントが多く共有されました。



【今後に向けて】

天草の豊かな自然と温かいおもてなしの中で行われた本大会。参加した会員からは「PTAの役割を再確認できた」「他校の事例が参考になった」との声が聞かれました。この学びを自校の活動にも活かし、子どもたちの輝く未来のために、私たちにできる一歩を共に踏み出していきましょう。



筑紫女学園大学の石原先生の講演では、日々の子育てや教育活動を心理学の視点から丁寧に整理してください、とても興味深く拝聴しました。特に「不安は未来への見通しのなさから生まれる」というお話が印象的で、子どもたちが安心して前向きに行動できるように、見通しを持たせることの重要性を改めて感じました。

「家庭教育」基調講演
筑紫女学園大学 石原努教授

第2分科会



UPIPTA! これからの未来を描くPTAの第70回日本PTA九州ブロック研究大会福岡市大会

また、言葉でのやり取り（言語的コミュニケーション）だけでなく、表情や態度などの非言語的な要素（ノンバーバルコミュニケーション）が人との関わりに大きく影響するという点も心に残りました。

さらに、保護者や教師が子どもたちの努力を認め、共感や感謝を伝えることが、自己有用感を育てる大切な要素であるという話には深く共感しました。心理学を通して、普段の関わり方を見直すきっかけをいただき、今後の子どもとの接し方に生かしていきたいと思いました。



提言者① 鹿児島県曾於市立光神小学校PTA会長 長有満武司氏

光神小の「親子の学ビバ」は、地域と学校、保護者が

一体となって子どもを成長を支える素晴らしい取り組みだと感じました。郷土を大切にし、思いやりや夢を育む活動を通して、子どもたちが自分の地域に誇りを持ち、豊かな心を育てていける点がとても印象的です。小規模校だからこそできる温かいつながりがあり、地域全体で子どもを育てる理想的な姿だと思いました。

「ビバ」とは、万歳、ばんざい、歓喜を意味する言葉で、何かを祝福したり、長続きを願ったりする際に使われるそうです。

提言者② 大分県竹田市立竹田南部中学校PTA会長 工藤真琴氏

竹田南部中学校の取組は、極小規模校であるがゆえに家庭と学校、地域が一体となって子どもの健全な生活を守ろうとする姿勢が素晴らしいと感じました。特に「夜十時以降はメディアを使用しない」という共通ルールづくりは、子どもたちの睡眠や心の

安定を守るうえでとても効果的だと思っています。親子で話し合っただけで決めることで、メディアとの付き合い方を一緒に考える良い機会にもなり、家庭の絆を深める取り組みだと感じました。

（郡P家庭部副代表理事 税木正昭）



特別分科会

UPIPTA!の討議題で開催された特別分科会は三十歳で校長先生になられた柴田先生の講演と笑いあいの座談会の二部構成でした。座談会はPTAのあ

るある満載の登壇者の方々の話で盛り上がり、QRコードを使用した会場4択アンケートなど趣向を凝らした内容で領いたり、笑ったりとあつという間の時間でした。講演は福岡女子商の生徒のヤル気に驚きの連続でそこに至るまでの過程にも驚かされることばかりでした。

女子商の校風・特性を生徒全員が「挑戦」と言えることに驚き、生徒自身が挑戦し続け、行動に移す。生徒に任せられるものはすべて任せる。はじめから無理と決めつけない。最終目標に向かって何度でも修正し目標をクリアする。一つずつの積み重ねで全体を巻き込んでいく、ヤル気にさせる…簡単そうに見えるのに難しいことを実践して、実績を残している。ホント、目の当たりにしてすげーってしか言えないですよ（笑）あ、今の女子商の生徒会長一年生らしいですよ。二年生立候補者五名を選挙で打ち破ったとか…マジでスゲー。

士って言葉がぴったり。策略があったりするのですが、一年生で生徒会長に挑戦すること事態がすごいこととでそれを行動に移せる環境があることが羨ましい。と純粹に思っていました。

現在のPTAは存続に危機を募らせている状況にあると思います。現状打破にはTry&Errorより活動しやすいPTAが求められていと思います。今回の講演には役立つヒントが多数盛り込まれていました。子どもたちの笑顔の為に皆で舵を切っていけるように、自分に出るから挑戦していこうかなってちよっと思えました。徐々にヤル気を浸透させていこうと思います。

（郡P理事 坂口智子）

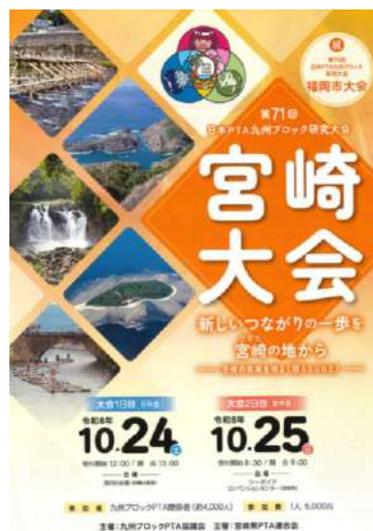


令和8年度主な事業

- | | |
|---|--|
| 5/9 球磨郡PTA連絡協議会
定期総会・情報交換会(ポッポ一館・彦六) | 9/ 県P家庭部会研修会 |
| 6/ 人吉市PTA連絡協議会定期総会 | 10/ 人吉球磨小中学校長PTA会長
合同研修会・情報交換会 |
| 6/6 熊本県PTA連合会
定期総会・情報交換会 | 10/24 第71回日本PTA
～25 九州ブロック研究大会福岡市大会 |
| 7/ 県P理事・事務局長合同研修会 | 11/ 第52回熊本県PTA研究大会荒尾大会 |
| 7/ 人吉球磨人権教育研究協議会
研究大会 | 2/ 球磨郡研修会・情報交換会 |
| 8/22 第73回日本PTA全国研究大会
～23 奈良大会 | 2/ 令和8年度単位PTAリーダー研修会 |
| 9/ 県P教育懇談会 | 3/ 県P理事・事務局長合同研修会 |
| 9/ 県P大会会場視察・打合せ | 5/8 球磨郡PTA連絡協議会
定期総会・情報交換会 |

他、郡P役員会・理事会、県P理事会等にも参加しています。

太字の研修会は一般会員様へもご案内していますので皆様奮ってご参加ください!



県Pあらお大会、球磨郡研修会はまだ日程が決まっていますが、たくさんの方にとって実りある研修会となるよう、準備中です。



「広報球磨郡第4号」をお届けいたします。今号は、子どもたちの「安心」と「未来」を育む地域での様々な活動に焦点を当てました。全国大会で優秀賞を受賞した学校給食の話や、不登校児童の多様な学びの場を提供するフリースクール「ポラーノの広場」、PTA副会長による心に届く「読み聞かせ」の力など、球磨郡の温かい取り組みをご紹介します。

地域全体で子どもたちを見守り、育む姿勢が強く感じられました。保護者や教職員、地域の方々で連携し、子どもたちの健やかな成長と輝かしい未来のために尽力されている姿に、私たちも改めてPTA活動の意義を再確認しました。

末筆ではございますが、取材にご協力いただいた皆様、そして日々のPTA活動にご理解ご協力いただいている全ての皆様に心より感謝申し上げます。

次号では、須恵小、木上小、相良南小、相良中取り組みをお届けする予定です。

皆様からの情報提供も引き続きお待ちしております。どうぞお気軽にお寄せください。

郡P広報紙では皆さんからの情報提供をお待ちしています。各学校の取り組みや〇〇周年行事、また、頑張っている子供たちの姿や地域との関わりなどなど。皆さんの身の回りの素敵な出来事をシェアしてください。

いただいた情報をもとにもっと球磨郡が、PTAが好きになるそんな広報紙を目指します。

応募はこちらから
↓ <https://forms.gle/bKzrhocRwVmnk-1xq9>

編
集
後
記



募集中!